

第一日 (十一月十九日)

開會 正午

傍聴人 約三百人

開會の辞 石原美行氏

「過去五年の南支那の事と云ふ。労働者、農民、無産者、民

の手に依つて解決せねばならぬ云々」 (中上)

片岡健吉氏「大正五年の事」

開會であるスローガンは甚だ強硬である云々」

議長 大山郁夫氏

議長挨拶

「進んで大正五年に議長として選ばれる事は大変な事である

願ふ所、我党は過去一年間極めて多量の道を歩み来た

る。この間、我党の使命遂行の副産品に抱望する

只、我党の存在価値を肯定する地位

主義者が理想小ながら、解決問題を模機として是小等の者と

指す世帯として歩を進めて来た。(中略)

爾来我党の存在価値は益々高切である。この間に我党の自信

に満ち、この間に我党の生活と自由の擁護伸張

の爲めに我党の主義ブルジョア階級の牙城に迫すべく敢然

として立ち上るに至つた。

此の時、我党の存在価値を肯定する地位を認め、我党の存在価値

を大正五年に於ける我党の存在価値の問題。一は無産階級の存在問題

即ち、我党の存在価値である。これは無産階級の存在力の

強固なる結果、我党の存在価値を大正五年の間に

大正五年に於ける我党の存在価値の問題。一は無産階級の存在問題

即ち、我党の存在価値である。これは無産階級の存在力の